

平成 27 年度

# 交野市埋蔵文化財発掘調査概要

2016. 3

交野市教育委員会



## 例　　言

- 1 本書は交野市教育委員会が平成27年度国庫補助事業（事業総額1,000,000円 国庫補助率50% 市負担率50%）として計画・実施した交野市内における埋蔵文化財発掘調査の概要報告である。
- 2 調査次数番号は、遺跡ごとに確認調査・立会・本発掘調査を一括し、その実施順に調査次数番号をつけ、遺跡名・年度・次数の順番に示す（東倉治遺跡2015-1次など）。
- 3 発掘調査は、交野市教育委員会社会教育課文化財係 吉田知史・藤川大・藤井信之・三宅正浩が行い、本書の編集・執筆は、藤川・藤井が行った。

## 凡　　例

- 1 調査区・遺構平面図の方位は、国土座標を用いたものを除いて磁北を示す。
- 2 使用した標高は、東京湾平均海水位（T.P.）からのプラス値であり、「T.P.+」を省略して示す。
- 3 本書の断面図の土色注記は、『新版標準土色帖』2011年版にもとづいて示す。
- 4 本書で使用している座標値は、世界測地系に準拠する平面直角座標系第VI系を基準とし、数値はメートル単位で表示している。

# 目 次

## 平成 27 年度交野市埋蔵文化財発掘調査概要

1.	交野市と市内の埋蔵文化財包蔵地の概要	1
(1)	交野市の位置と環境	1
(2)	交野市内の周知の埋蔵文化財包蔵地	1
2.	文化財保護法にもとづく届出・通知と確認調査	3
(1)	文化財保護法にもとづく通知・届出の受理状況	3
(2)	対処状況	3
3.	平成 27 年度実施の試掘・確認調査	7
(1)	試掘 2015- 2 次調査の概要	7
(2)	東倉治遺跡 2015- 2 次調査の概要	8

## 挿図

第1図	交野市の位置	1
第2図	交野市内の遺跡分布図	2
第3図	坊領遺跡 2015- 1 次 位置図	5
第4図	坊領遺跡 2015- 1 次 平面図	5
第5図	坊領遺跡 2015- 1 次 西壁断面図	5
第6図	試掘 2015- 1 次 位置図	5
第7図	試掘 2015- 1 次 平面図	5
第8図	東倉治遺跡 2015- 1 次 位置図	6
第9図	東倉治遺跡 2015- 1 次 平面図	6
第10図	東倉治遺跡 2015- 1 次 第1・2調査区 北西壁断面	6
第11図	試掘 2015- 2 次 位置図	7
第12図	試掘 2015- 2 次 平面図	7
第13図	試掘 2015- 2 次 第2調査区 北壁断面図	7
第14図	東倉治遺跡 2015- 2 次 位置図	8
第15図	東倉治遺跡 2015- 2 次 平面図	10
第16図	東倉治遺跡 2015- 2 次 柱状図	11
第17図	東倉治遺跡 2015- 2 次 第4調査区 壁面図	11
第18図	東倉治遺跡 2015- 2 次 第4調査区 平面図	13

## 挿表

第1表	平成 27 年度の届出・通知の件数および内訳	3
第2表	平成 27 年度の試掘・確認調査一覧	4

## 写真・図版

図版1	試掘 2015- 2 次 第2調査区 完掘状況 北東から
図版2	試掘 2015- 2 次 第2調査区 北壁断面図
図版3	東倉治遺跡 2015- 2 次 第4調査区 全景 北から

- 図版4 東倉治遺跡 2015・2次 第4調査区 南壁断面
- 図版5 東倉治遺跡 2015・2次 第4調査区 遺構完掘状況（SD2・SD3） 北から
- 図版6 東倉治遺跡 2015・2次 第4調査区 遺構完掘状況（SD1） 南から
- 図版7 東倉治遺跡 2015・2次 第4調査区 遺構完掘状況（SP1）
- 図版8 東倉治遺跡 2015・2次 第4調査区 遺構完掘状況（SP2）



# 平成 27 年度交野市埋蔵文化財発掘調査概要

## 1. 交野市と市内の埋蔵文化財包蔵地の概要

### (1) 交野市の位置と環境

交野市は、昭和 30 (1955) 年に星田村と合併した交野町を前身として、昭和 46 (1971) 年に市制を施行した。大阪府の東北部、北河内に位置し、北は枚方市、西は寝屋川市、南は四條畷市、東は奈良県生駒市に接する。市域は、東西 5.4 km、南北 6.8 km、面積 25.5 km<sup>2</sup>である。人口は、平成 27 年 12 月末現在 78015 人に及ぶ。市の東南部の大半は、風化の進んだ花崗岩類からなる交野山地が占め、その麓に沖積層及び洪積層からなる平野が広がる。市域の小河川は天野川へ集約し淀川に注ぎ、市西部の傍示川のみ寝屋川水系に注ぐ。



第 1 図 交野市の位置

### (2) 交野市内の周知の埋蔵文化財包蔵地

**旧石器** 神宮寺遺跡 (18) 採集の国府型ナイフ形石器や、私部南遺跡 (36) 出土の細石刃・石核、布懸遺跡 (49) のナイフ形石器の製作痕跡が著名である。

**縄文** 草創期の有茎尖頭器の採集と、早期の押型文土器が出土した神宮寺遺跡 (18) が著名である。星田旭遺跡 (47)、私部南遺跡 (36) などで中後期の資料が確認される。

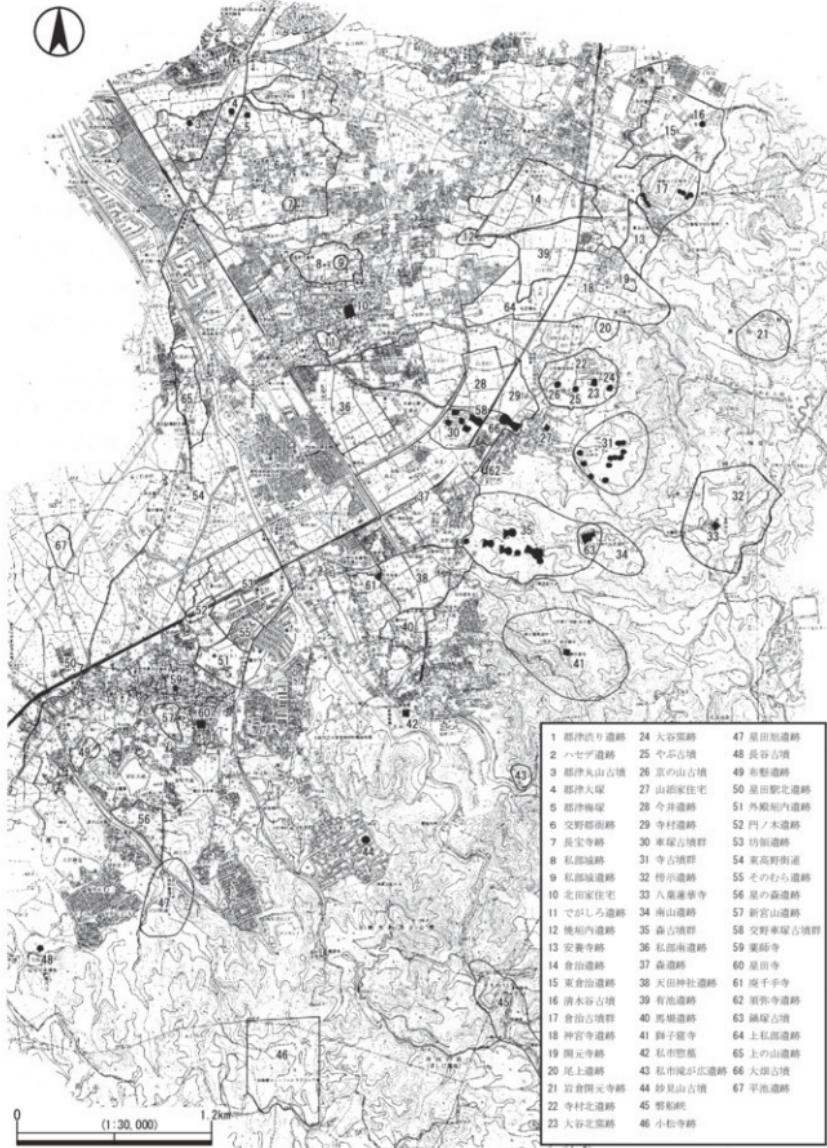
**弥生** 中期以前は、私部南遺跡 (36) の堅穴住居、上の山遺跡 (65) の独立棟持柱建物など平野部に遺跡が広がる。後期は、山間部に東倉治遺跡 (15)、南山遺跡 (34) が展開する。

**古墳** 前期の森古墳群 (35)、中期の車塚古墳群 (30)、後期の寺・倉治古墳群 (31・17) と造営が続く。また、鍛冶生産を行う森遺跡 (37) や、初期須恵器生産の痕跡を残す上の山遺跡 (65)、豪族居館または開発拠点集落とされる上私部遺跡 (64) などが注目される。

**飛鳥～奈良** 奈良時代の瓦が出土した長宝寺跡 (7) の周辺が交野郡衙跡 (6) とされる。大谷北窯跡 (23) や私部南遺跡 (36) の掘立柱建物群と青銅製帶金具なども注目される。

**平安～鎌倉** 近年、有池遺跡 (39) で集落城が大規模に調査された。

**室町～戦国時代** 大阪府で奇跡的に残る平城として私部城跡 (8) が知られる。また、新宮山遺跡 (57)、山岳寺院である岩倉開元寺跡 (21) など寺社の遺跡が多い。



第2図 交野市内の遺跡分布図

## 2. 文化財保護法にもとづく届出・通知と確認調査

### (1) 文化財保護法にもとづく届出・通知の受理状況

平成 27 年 4 月 1 日から平成 28 年 2 月 29 日までに受理した文化財保護法第 93 条の届出の件数は 160 件、94 条の通知の件数は 2 件で、総件数は 162 件であった。第 1 表に遺跡ごとの工事目的と処置の内訳を示した。工事目的の内訳をみると、個人・分譲住宅、電気を中心に件数が多い状況が続いている。また遺跡別に届け出件数をみると、私部南遺跡、坊領遺跡、門ノ木遺跡、森遺跡、外殿内遺跡の順に多くなってきている。

### (2) 対処状況

文化財保護法にもとづく届出・通知について、大阪府における開発事業等にともなう埋蔵文化財の取扱い基準に従い、慎重工事・立会調査・確認調査の処置を決定した。そのうち、本年度中に実施した試掘・確認調査一覧を第 2 表に示した。試掘・確認調査を実施したものうち主要なものについては、次に各調査の概要を述べる。

第 1 表 平成 27 年度の届出・通知の件数および内訳

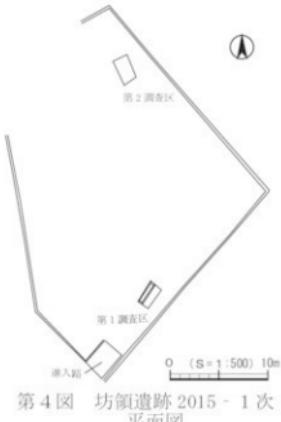
文化財 一覧番号	遺跡名	件数	工事目的の内訳									処置の内訳							
			宅地造成	個人住宅	分譲住宅	その他住宅	店舗	その他建物	ガス	電気	水道	下水道	電話通信	農業関係	その他開発	慎重工事	立会調査	発掘調査	
2	ハセデ遺跡	6	1	1	1						3					4	2		
6	交野郡衙跡	18		7	9						2					16	2		
13	安養寺跡	3			3											3			
14	倉治遺跡	1													1		1		
15	東倉治遺跡	7	1	1	1	1	1		2							5		2	
18	神宮寺遺跡	4		1	3											4			
29・30	寺村・車塚	2			1					1						2			
36	私部南遺跡	33		9	16	1		2	1	4						32	1		
37	森遺跡	19	1	7	4			1	1	5						17	2		
38	天田神社遺跡	4		1	3											3	1		
40	馬場遺跡	5	1	1						3						5			
51	外殿垣内遺跡	12		5	7											11	1		
52	門ノ木遺跡	20	1	7	11						1					19	1		
53	坊領遺跡	24	2	3	15					4						23		1	
56	星の森遺跡	2		1											1	2			
62	須弥寺遺跡	1						1									1		
65	上の山遺跡	1									1					1			
		合計数	162	6	44	75	2		4	2	25	1				2	147	11	4

第2表 平成27年度の試掘・確認調査一覧

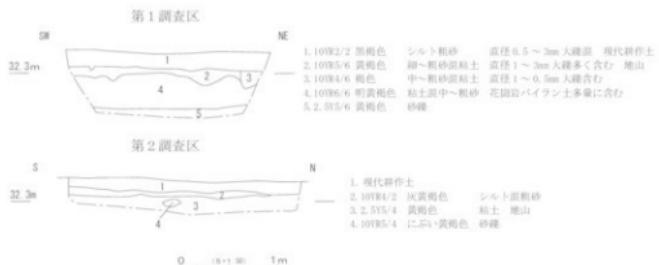
No.	調査期間	遺跡名・調査次数	調査地住所	調査面積 掘削深度	内容
1	平成27年 7月26日	坊領遺跡 2015-1次	藤が尾6丁目 188-1	7.65 m <sup>2</sup> G.L.-0.7m	現地表下0.2m(T.P.32.40m)で地山が確認された。断面観察の結果、遺構・遺物は確認されなかった。 (5頁に図面)
2	平成27年 8月4日～ 8月11日	試掘 2015-1次	寺3丁目1729 -23、-24、 -25、-31	49.25 m <sup>2</sup> G.L.-2.2m	現地表下2.20m(T.P.53.0m)まで掘削を試みたが、地山は確認されず、山側から流れ込こみ堆積した花崗岩風化層のみを確認するにとどまった。断面観察の結果、遺構・遺物は確認されなかった。 (5頁に図面)
3	平成27年 8月19日	東倉治遺跡 2015-1次	東倉治5丁目 2361-1	18.0 m <sup>2</sup> G.L.-0.8m	現地表下0.8m(T.P.72.10m)で地山を確認した。断面観察の結果、遺構・遺物は確認されなかった。 (6頁に図面)
4	平成27年 10月28日～ 10月29日	試掘 2015-2次	私部7丁目 2472番、2473 番ほか	27.05 m <sup>2</sup> G.L.-0.8m	現地表下0.6m(T.P.31.0m)で中世以前にさかのぼる可能性のある溝跡を検出した。但し、決め手となる遺構・遺物が確認されなかったため、追加調査を行わなかった。 (7頁に図面)
5	平成27年 12月14日～ 12月18日	東倉治遺跡 2015-2次	東倉治5丁目 2087番、2189 番1	130.82 m <sup>2</sup> G.L.-3.0m	現地表下1.30m(T.P.88.92m)で、近世以前の溝4条、ピット2個を確認した。工事により破壊の及ぶ範囲はこの調査により記録保存をおこなった。遺物は確認されなかった。 (8・9・11・12・13頁に図面)



第3図 坊領遺跡 2015 - 1次 位置図



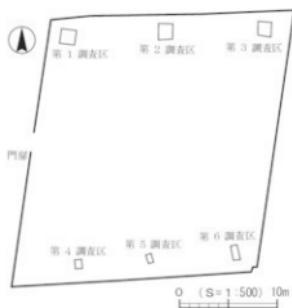
第4図 坊領遺跡 2015 - 1次 平面図



第5図 坊領遺跡 2015 - 1次 西壁断面図



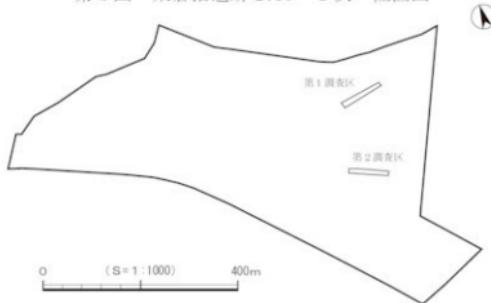
第6図 試掘 2015 - 1次 位置図



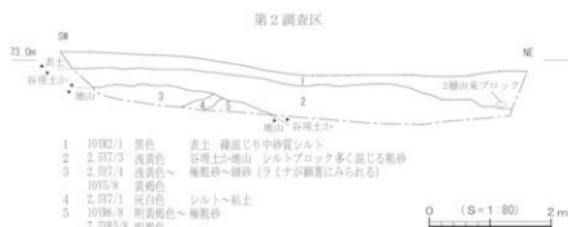
第7図 試掘 2015 - 1次 平面図



第8図 東倉治遺跡 2015-1次 位置図



第9図 東倉治遺跡 2015-1次 平面図



第10図 東倉治遺跡 2015-1次 第1・2調査区 北西壁断面図

### 3. 平成 27 年度実施の試掘・確認調査

#### (1) 試掘 2015 - 2 次調査の概要

**調査地点の概要** 試掘 2015 - 2 次調査地は、埋蔵文化財包蔵地外ではあるが、周辺に焼垣内遺跡や上私部遺跡、私部南遺跡が所在する所以、確認のため試掘調査を実施した。中世以前にさかのぼる可能性のある溝跡 2 条を確認したが、時代判定の決め手となる遺物が検出されなかつた。よって、追加の調査を行わなかつた。

**調査の過程** 建築予定のある調査地点西半に調査区を 4 区設定した。断面観察及び地山直上面の人力精査により中世以前にさかのぼる可能性がある溝跡を確認した。

**層序** 第 13 図に調査区断面図を示した。現代耕作土である表土（1 層）以下、3 層まで旧耕作土である。旧耕作土を除去した面で作土が 3 層検出された。作土を除去した面で、中世の溝 2 条（7 層）と地山（8 層）を確認した。

**検出遺構** 地山直上面で確認した遺構は、断面観察の結果、中世以前にさかのぼる可能性のある溝跡と判断したが、時期判定の決め手となる遺物をともなつてないため正確な時期は不詳である。周辺の調査成果をふまえると、これらの溝跡は中世の耕地開発にともなうものとみられる。

**調査後の対応** 以上のように、遺構は確認されたが遺物をともなわなかつたため、本発掘調査は実施しなかつた。ただし、周辺の調査では引き続き遺構が発見される可能性が高く、注意が必要である。



第 12 図 試掘 2015 - 2 次 平面図



第 11 図 試掘 2015 - 2 次 位置図

0 (S = 1 : 500) 200m

0 (S = 1 : 40) 1m

## (2) 東倉治遺跡 2015 - 2 次調査の概要

**調査地点の概要** 調査地は、生駒山地の北端に位置する交野山地の西麓に所在し、北東から北西へ傾斜する中位段丘堆積層上に立地している。交野山地は、花崗岩類でできているため、周辺は花崗岩の風化した砂屑が堆積し形成されている。この交野山地の花崗岩は風化が著しい。

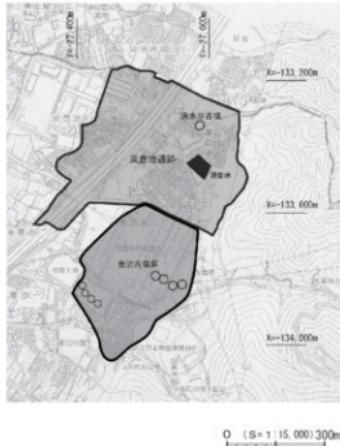
過去の東倉治遺跡の調査では、第二京阪道路の発掘調査の際に、交野山地から供給された土砂堆積の下層で、古墳時代から弥生時代の集落遺跡が確認された。また、今回の調査地の近隣に位置する清水谷古墳や、南西方向に倉治古墳群が確認されている。調査地は清水谷古墳からみて谷を一つ挟んだ南西方向の斜面に位置する。中世以前の遺構・遺物が確認される可能性があった。

**調査の過程** 調査地の北西半にあたる斜面に第1調査区を設定した。工事による予定掘削深度まで重機で掘り下げたのち、人力精査を行った。顕著な遺構・遺物は検出されなかった。断面観察の結果、交野山地より供給された土砂が東の方向から堆積していることが確認された。

次に、調査区東半に第2調査区を設定した。遺構・遺物は検出されなかつたが土砂堆積層の下層に一部地山が確認された。この地山は南壁にわずかに検出され、西の方向に落ち込むことが確認できた。(10頁第15図)

この落ち込み続きを確認するため、第2調査区からみて南西の方向に第3調査区を設定した。顕著な遺構・遺物は検出されなかつたが、地山が確認された。断面観察の結果、第2調査区にて観察した層が北西方向に落ち込むことが確認できた。(11頁第16図)

そこで、調査地南端に第4調査区、その東側に第5調査区を設定した。第5調査区は、遺構・遺物は検出されなかつたが地山が確認され、第5調査区中半で北西方向に急な落ち込みを呈し、その続きが第4調査区で確認された。第4調査区は、北西方向にゆるやかに落ち込んでいくことが確認でき、断面観察の結果、中世以前にさかのぼる可能性のある遺構が検出された。



第14図 東倉治遺跡 2015 - 2 次  
位置図

**層序** 第1～4調査区は、地山直上層を除く層序は基本的に交野山地から供給された風化した花崗岩堆積層である。第5調査区は、荒土（表土）を除けば地山にいたる。荒土（第1層）を除き、地山面にいたるまでの各層は、細かな砂層でもろく崩壊しやすい堆積層であった。また各層は、北西方向に落ち込むように堆積していることから、交野山地より供給された土砂堆積層であることも容易に判断できた。

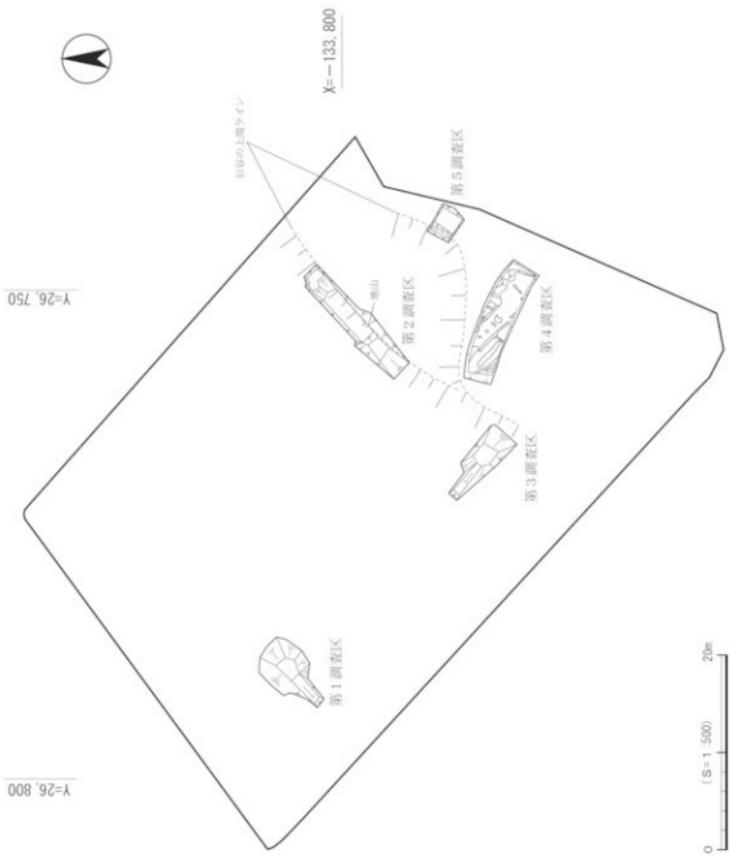
ここでは、遺構が確認された第4調査区の層序（12頁第17図）を中心に述べる。表土は荒土である。荒土以前の近現代の旧表土（同2層）では、明瞭に南東方向に向かって高くなる。第3層は、灰オリーブ色の土層で河原石や礫が混じり合っていた。このことから交野山地の南東方向より供給された土砂堆積であることが確認できた。第4層は、遺物包含層と考えられたが、土砂堆積により上面が削平されており、顕著な遺物は検出されなかつたが、下限で遺構が確認された。今回確認した遺構は、中世以前にさかのぼる可能性がある溝・ピットである。

**第4調査区の遺構（13頁第18図）** 第4層除去面で精査を行った。地山上に掘り込まれた溝3条を断面観察によって確認した。この溝は南北方向にのび並ぶ。遺構の検出状況から、今回掘削をともなった範囲以外にも、この溝は南北方向に広がるといえる。第1～第5調査区の層序が、北西方向に落ち込む形状を成すことは前に述べた。それと同様にその下層に検出された地山も同様に落ち込んでいる。この落ち込みは旧谷部であると考えられる。この旧谷部を溝3条は、南北にきる形状を成している。時期を特定するため掘削をしたが、遺物は検出されなかつた。土色観察及び断面観察の結果、中世以前のものと考えられる。

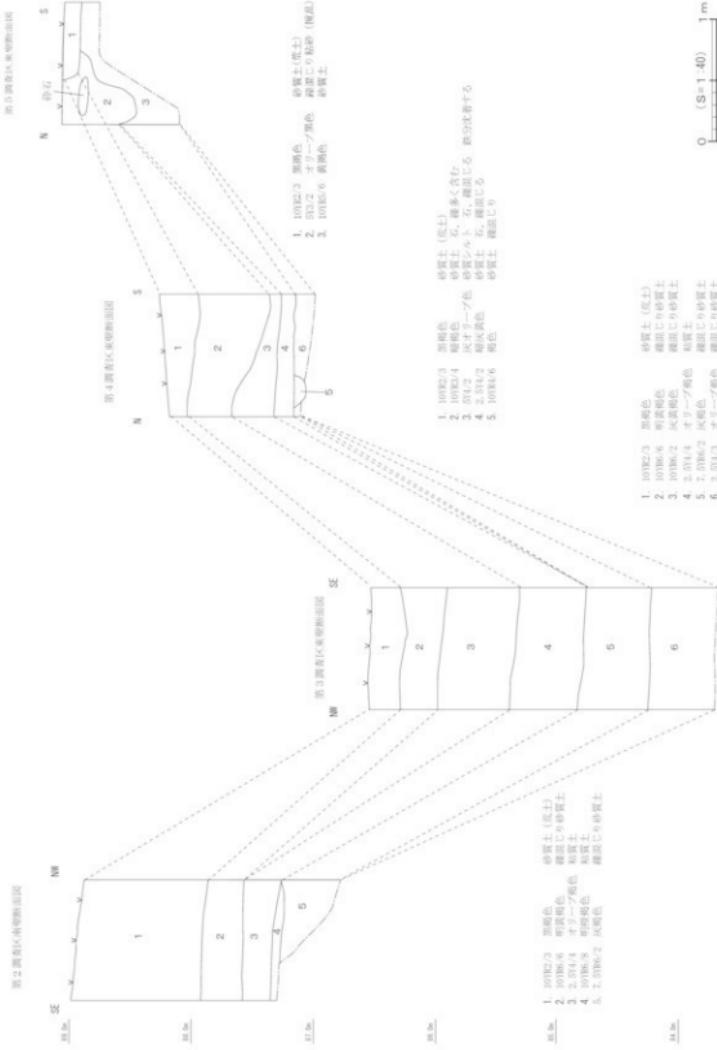
また、第4層下面で精査を行った際、ピット2個を確認した。上面の大部分が削平されており、顕著な遺物は検出されなかつた。土色観察の結果、中世以前のものと考えられる。

**調査後の対応** 第4層下面で中世以前にさかのぼる可能性がある遺構を確認したが、時期判定の決め手となる顕著な遺物は検出されなかつた。ただし、近隣では清水谷古墳をふくむ数基の古墳が確認されている。さらに、第二京阪道路建設にともなう発掘調査成果もふまると、周辺や下層で中世以前の遺構が検出される可能性も考えられる。

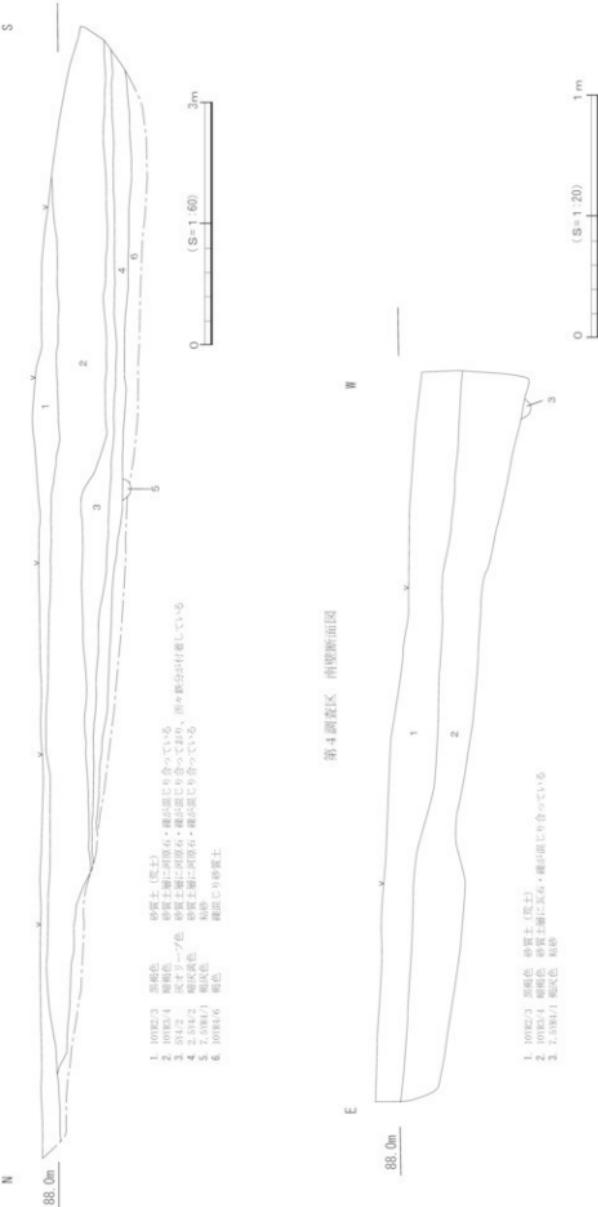
第15図 東食治遺跡 2015-2次 平面図



第 16 図 東倉治遺跡 2015-2 次 柱状図

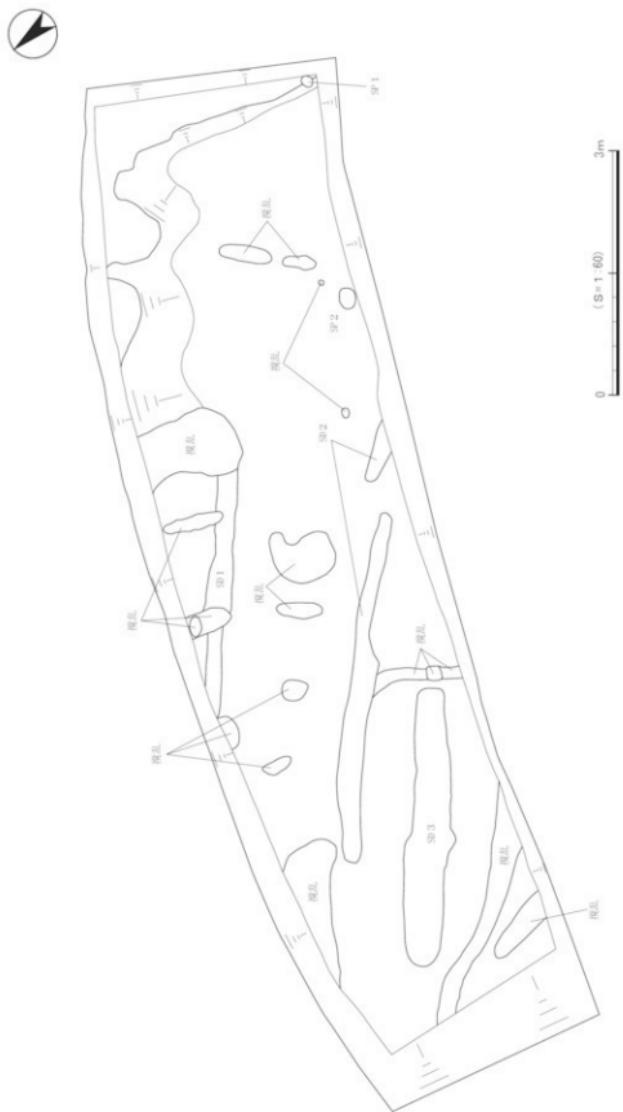


第4調査区 東側断面図



第17図 東側治道跡2015-2次 第4調査区 断面図

第18図 東倉治遺跡2015-2次 第4調査区 立面図



#### 4. まとめ

今年度の調査は、5件実施された。昨年度に比べ減少したものの、交野市内における開発事業は個人・分譲住宅、電気を中心に件数が多い状況が続いており、今後も継続すると推察される。こうした状況から今後調査の機会も、開発にともない増えてくるものと思われる。今年度実施の確認のための試掘・確認調査で、試掘2015-2次と東倉治遺跡2015-2次において中世以前にさかのぼる可能性のある遺構を確認した。

試掘2015-2次の調査で確認された遺構は、時期判定のため掘削を試みたが、遺物は検出されず、土色観察及び断面観察の結果、中世の耕地開発にともなう溝と判断するにいたった。当該調査は、きわめて限定的であるためこうした解釈が妥当であるかどうか、今後の調査の進展のなかで検証したい。

また、東倉治遺跡2015-2次の調査でも溝3条とピット2個が確認された。溝3条は、南北方向にのび並ぶ。遺構の検出状況から、今回掘削をともなった範囲以外にも溝3条はのびる可能性が高い。これをふまえて考えると、今回の調査で確認された旧谷部が北西方向に落ち込むのに対し、溝3条はその旧谷部を南北方向に走る形状を成している。時期判定のため掘削を試みたが、遺物をともなっていないため正確な時期までは特定できなかった。土色観察及び断面観察により、溝3条は中世以前のものであろうと判断するにいたった。調査範囲もきわめて限定的であるため、今回確認された遺構の様相について、確実たる解答を導き出すことは叶わず、現状の解釈にとどまる。しかしながら、今後の調査の進展のなかで比較検証するとともに、東倉治遺跡全体の変遷における位置づけを求めていきたい。

写 真 図 版





図版1 試掘 2015-2次 第2調査区 完掘状況 北東から



図版2 試掘 2015-2次 第2調査区 北壁断面





図版3 東倉治遺跡 2015-2次 第4調査区 全景 北から



図版4 私部南 2015-2次 4調査区 南壁断面





図版5 東倉治遺跡 2015-2次 第4調査区 遺構完掘状況（SD 2・SD 3） 北から

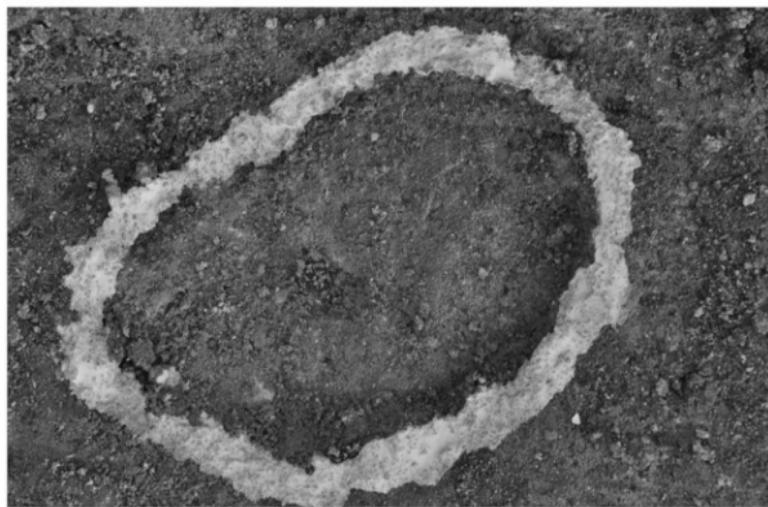


図版6 東倉治遺跡 2015-2次 第4調査区 遺構完掘状況（SD 1） 南から





図版7 東倉治遺跡 2015-2次 第4調査区 遺構完掘状況（S P 1）



図版8 東倉治遺跡 2015-2次 第4調査区 遺構完掘状況（S P 2）



# 報告書抄録

ふりがな 書名	へいせい 27 ねんどかたのしまいぞうぶんかざいはくつちょうさがいよう 平成 27 年度交野市埋蔵文化財発掘調査概要						
副書名							
巻次							
シリーズ名	交野市埋蔵文化財調査報告						
シリーズ番号	2015 - I						
編著者名	藤川大・藤井信之						
編集機関	交野市教育委員会						
所在地	〒 576 - 0052 大阪府交野市私部 1 丁目 1 番 1 号 TEL (072)892 - 0121						
発行年月日	2016 年 3 月 31 日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	山町村 コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
坊頭遺跡 2015 - 1 次	藤が尾 6 丁目 188 - 1	27230 53	34° 46' 18"	135° 46' 26"	平成 27 年 7 月 26 日	7.65 m <sup>2</sup>	分譲住宅
	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
	集落跡	弥生	-	-			
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	山町村 コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
試掘 2015 - 1 次	寺 1 丁目 1729 - 23, 24, 25, 31	27230 -	34° 47' 47"	135° 41' 47"	平成 27 年 8 月 4 日 ~ 11 日	49.25 m <sup>2</sup>	私 人 学 校 教室
	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
	集落跡	調文～近世	-	-			
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	山町村 コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
東倉治遺跡 2015 - 1 次	東倉治 5 丁目 2361 - 1	27230 15	34° 47' 57"	135° 42' 09"	平成 27 年 8 月 19 日	18 m <sup>2</sup>	分譲住宅
	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
	集落跡	調文～近世	-	-			
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	山町村 コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
試掘 2015 - 2 次	私部 7 丁目 2472, 2473	27230 -	34° 47' 20"	135° 41' 16"	平成 27 年 10 月 28 日 ~ 10 月 29 日	27.05 m <sup>2</sup>	分譲住宅
	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
	集落跡	中世	唐	-			
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	山町村 コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
東倉治遺跡 2015 - 2 次	東倉治 1 丁目 501 - 2	27230 15	34° 47' 47"	135° 42' 16"	平成 27 年 12 月 14 日 ~ 18 日	130.82 m <sup>2</sup>	老人福祉施設
	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
	集落跡	調文～近世	柱穴、溝	-			

## 平成 27 年度 交野市埋蔵文化財発掘調査概要

発 行 日 2016 年 3 月 31 日

編集・発行 交野市教育委員会

大阪府交野市私部 1 丁目 1 番 1 号

印 刷 所 京阪工技社

(本報告書は、再生紙を使用しています。)

